

総務委員会委員協議会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>令和2年8月31日</p> <p>開 会 午前 9時55分</p> <p>閉 会 午前10時40分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>議会西棟第1会議室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委員</p>	<p>委員長 布 俣 正 也 副委員長 所 竜 也 委員 猫 田 孝 佐 藤 武 彦 小 原 尚 高 木 貴 行 平 野 恭 子</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>執行部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p> <p>総務課長 高野 朋 治 議事調査課長 梅 本 雅 史 係 長 市 川 圭 司 主 任 森 広 嗣</p>

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1. 令和2年7月豪雨について 2. その他	

6 議事録（要点筆記）

○布俣正也委員長

ただいまから総務委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため開催したものである。

議題は、お手元に配布した「次第」のとおりである。なお、執行部職員の出席については、今回の議題を所管する所属を中心に出席いただいているので、あらかじめ了承願う。

それでは、「令和2年7月豪雨について」を議題とし、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶：渡辺危機管理部長）

（執行部説明：宮前防災課長）

（執行部説明：西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監）

○布俣正也委員長

ただいまの説明に対して質疑はないか。質疑は一問一答で願います。

○高木貴行委員

避難所へ避難すべき人と、逆に移動しない方が安全な人がいる。今回の豪雨では、本当に避難が必要な人は避難できたのか。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

平成30年7月豪雨災害における避難情報について、エリアやタイミングを絞った出し方が課題になっており、今回の豪雨でも検証ポイントとしてみている。現在、住民の避難行動の実態を調べるための作業を進めているところ。

○高木貴行委員

県で災害時応援協定を締結していると思うが、市町村の中には「県が締結しているので市町村では協定締結は不要」という意見もある。各市町村においても、協定締結も含めて災害時の対策を考えていくべきだと思うが、県はどのように考えているか。

○宮前防災課長

災害対応には迅速性が求められるため、市町村でも協定を締結した方がよいと考える。協定締結により、平時から事業者と顔の見える関係を築くことができ、県の救助を待つことなく、より迅速な対応が可能となる。

○高木貴行委員

県が締結している協定の内容について、市町村は全て把握しているのか。

○宮前防災課長

県全体で災害応援に係る協定は今年度4月1日現在で216あることから、その詳細は資料を見ないと分からない状況だと思われる。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

県が締結している協定については、県地域防災計画に掲載しているが、一覧で示しているため、個別の内容については確認していただく必要がある。

○平野恭子委員

要配慮者利用施設における避難確保計画の作成は進めていってもらいたい。着実に計画を実行するための訓練が必要になると思うが、各施設における訓練実施の対応はどうなっているのか。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

避難確保計画の作成と訓練実施については、県土整備部が計画作成に係る呼びかけや施設に対する講習実施などの支援、危機管理部は市町村に対する助言の実施、特に福祉施設に関しては健康福祉部が監査時に訓練が実施されているか確認することとしている。熊本県の事例をうけ、改めて強化、確認していく必要がある。

○猫田孝委員

乗鞍スカイラインの被害の現状と今後の見通しはどうなっているか。

○宮前防災課長

今年度中の開通は無理だと聞いているが、見通しについては再度確認し報告させていただく。

○布俣正也委員長

バックウォーター現象は過去にも起こっていたのか。今回も想定されていたものか。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

現象そのものは過去から各地で起こっており、白川町の現場では過去にも水害が発生したと聞いている。県土整備部が調査を進めている。

○布俣正也委員長

今後、バックウォーター現象が起こらないように河川の改修を行っていくのか。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

河川の合流点だけでなくその下流の形状等もバックウォーター現象に影響があると考えられており、全体を見ながら対応策を模索していくことになると思われる。

○佐藤武彦委員

避難勧告や避難指示を発令したタイミングについて、現時点の見解は。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

避難情報を出したタイミングは、遅れてはならず、むしろ早めに出した傾向がみられる。

○佐藤武彦委員

今回は約3,800人が避難し、人的被害が少なかったとのことだが、もし避難しなかったら人的被害は増えたのか。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

はっきりとは分からない。住民の避難の実態を確認していく必要がある。

○佐藤武彦委員

避難勧告が発令されても、自分が今避難すべきかの判断が難しい。発令エリアを狭くすることが大切。

避難が必要な人とそうでない人がおり、実態把握は大変な作業だと思うが、県民の安心のためお願いしたい。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

その視点で調査を行っていききたい。

○佐藤武彦委員

今回の災害の気象状況の特徴は。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

特定の期間に集中し、ピンポイントで雨が降る集中豪雨の面と、約1ヶ月間の長雨と両方の特徴を併せ持っていたとみている。

○佐藤武彦委員

雨量レーダーを見ると中津川のあたりから下呂にかけてよく雨が降るように思うが、気象の現状は変わってきたということか。気象状況の変化に応じて対策を変えていくとよいのではないか。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

従来のように特定の地域に降るという概念は当てはまらない状況であり、その都度、気象状況から確認していく必要がある。

○猫田孝委員

この数年で気象状況は変わったと感じる。昔は西濃地域がその他の地域に比べ災害が多かったため、治水事業が進んでいる。今回多くの雨が降った飛騨や東濃地域等では治水対策は完璧でないと思われる。

今後は今回多くの雨が降った地域の治水、治山事業が非常に大事になると考える。県土整備部、林政部、農政部には、今後の対応をお願いしたい。

○西危機管理部次長兼岐阜地域危機管理監

関係部局にはその旨伝える。

○布俣正也委員長

要望ということで関係部局に伝えていただきたい。

その他、よろしいか。

(発言する者なし)

○布俣正也委員長

ご意見も尽きたようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

総務委員会委員協議会配席図

令和2年8月31日(月)
議会西棟3階第1会議室

